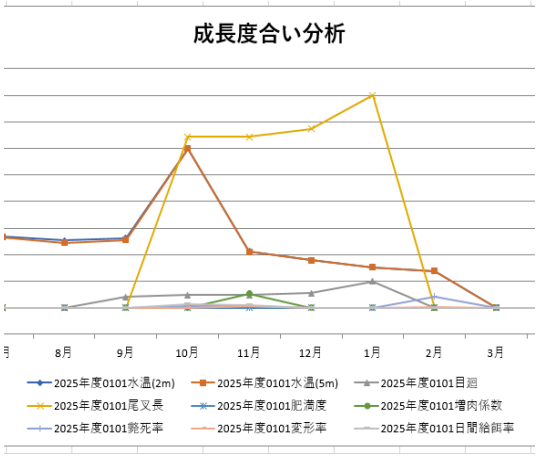
令和6年度補正GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト事例

事業実施主体：三重県養殖魚輸出産地協議会
品目　　：養殖ぶり、養殖まだい

	令和6年度	令和7年度	前年比
輸出額	約6.5億円	約14億円	**215%**
輸出量	約360トン	約558トン	**155%**





（左）生産データに基づく分析　（右）残さ活用ペレット飼料

課題

養殖管理の省力化と高度化
- ✓ 生産データが分散し、一元的な管理が困難
- ✓ リアルタイムな状況把握ができず、生産性向上や規模拡大の妨げとなっている

高水温化・飼料コスト高騰への対応
- ✓ 夏季高水温期の長期化によるブリのへい死
- ✓ 飼料価格高騰による生産コスト増

輸送コスト削減と海外販路拡大
- ✓ 輸送コストが高く、価格競争力が不足
- ✓ 海外市場での販路開拓が必要

取組

養殖DXによる養殖管理の実証
- ✓ 『養殖データ管理システム』の導入
- ✓ 生産・給餌・成長・へい死等のデータを集約し、情報共有とコスト管理を実証

新たな飼料による生産性向上の実証
- ✓ 高水温対策飼料の給餌試験
- ✓ 食品工場の食品残さ（小豆皮）を活用した給餌試験

物流効率化と海外市場を開拓
- ✓ 東海地区の港や空港を活用した輸送実証
- ✓ 海外商談会や現地プロモーションを実施

成果

生産管理の効率化と見える化を実現
- ✓ 魚種別・生産者別の生産状況を可視化
- ✓ データに基づく生産分析や経営判断が可能に

生産リスク低減とコスト削減
- ✓ 免疫機能向上、疾病・へい死リスク低減を確認
- ✓ 飼料コスト削減と品質向上の可能性を確認

輸送コスト削減と販路拡大を実現
- ✓ 冷凍コンテナによる東海地区発の低コスト輸送モデルを確立
- ✓ 香港・シンガポールでの販売拡大に加え、EU等への新市場へ展開